

6 高等学校 ～人間関係が原因で拒食症になり自殺した事例～

H市内の高校に通っていたE子は、明るく健康的な生徒だった。勉強はもちろん、部活動にも積極的に参加し、頑張っていた。そんなE子が高校2年生の春に、同じ学年の男子生徒との人間関係がうまくいかなかったことをきっかけとして、精神的に落ち込み、学校を休みがちとなり、拒食症になった。

医師の勧めもあり、しばらくは自宅療養をしてカウンセリングによる治療を受けていたが、精神的に不安定な状態が続いたため、専門病院に入院して治療に専念することとなった。

このようなE子に対し、学校はサポートチームを作って支援し続けたが、治療が長期化し、E子は1年間留年することになった。

この後、病状が回復の兆しを見せ、精神状態が落ち着いたため、一時的に帰宅と登校を許されたE子は、ある日、登校するために家を出たが、学校には行かず、生きる望みを失ったという内容の電話を母親にかけ、デパートの屋上から飛び降り自殺をした。

サインの発見

問題の理解

指導方針の確立と指導の実際

・サポートチームの結成

1 前兆行動（サイン）と問題の理解

- (1) 母親によるサインの発見
↓ (担任への相談)
- (2) 担任による問題の理解
↓ (学年会等への報告)
- (3) 学校内での情報収集を通じた問題の理解
↓ (友人関係等の確認)
- (4) 家庭訪問等によるとE子の状況確認 (家庭との連携)

家庭の状況	・親と話をしなくなる。 ・学校を休みがちになる。 ・自分の部屋に閉じこもり、沈みがちになる。 ・拒食症になるなど、精神的にもかなり不安定な状態となる。
学校の状況	・同校男子生徒との人間関係がこじれていることが判明する。

○中学校との連携の中で、E子が中学時代に、友人関係のもつれからリストカットをしていることが判明していた。

2 対応策の検討

(1) サポートチームの結成

担任と学年主任による家庭訪問の結果、思った以上にE子の状況が悪いことが判明したことから、当分の間、E子の立ち直りを支援するために、次のようなサポートチームを作り、対応することにしました。

<メンバー>

- ・教頭
- ・学年主任
- ・担任
- ・養護教諭
- ・専門医
- ・カウンセラー
- ・(保護者)

メンバーの主な対応

- ・学校配置のスクールカウンセラーにより、週1回の家庭訪問によるカウンセリングを行う。
- ・学年主任、担任、養護教諭が、週1回の家庭訪問を行い、カウンセリングを行う。
- ・専門医へは通院をして治療を受ける。
- ・その他、家庭、学校、病院とは連携を密にする。

・病院訪問によるカウンセリングの実施

・教職員全体の共通理解

(2) 通院から入院への転換

サポートチームを結成し、各サポーターがそれぞれの対応を行ってきましたが、E子の拒食症の症状が悪化したため、専門医の指示を受けてしばらくの間入院治療することにしました。

○E子は明るく、何事にも積極的な生徒だったが、思い詰める性格であり、精神的な落ち込みが激しかった。

(3) 入院中のE子へのカウンセリングの開始と、E子への教職員全体のサポート体制の整備

E子は、入院はしているものの、精神的にもかなり落ち着き、学校生活への意欲も時折見せてきたことから、専門医との連携のもと、病院へ赴いてのカウンセリングを開始しました。

○患者に対する過度の励ましは、逆に大きなプレッシャーとなる場合があることを専門医から知らされた。

なお、病院への訪問に当たっては、教職員全員がE子に対する共通理解をもち、無理のない課題等を課すことなどについて確認をし、E子に対するサポート体制づくりを行いました。

(4) 回復の兆しと自殺

E子は学校のことを気にしながらも、病気を治してから学校に戻る決意をしました。サポートチームは、E子の決意後も、家庭や専門医との連携のもと、病院訪問を続けていましたが、ある日、E子の病状が快方に向かっていることから、専門医が、一時的にE子を家庭に戻し、学校へ登校させるという判断をしました。数日後、登校するために家を出たE子は、学校には登校せず、生きる望みを失ったという内容の電話を母親にかけた直後にデパートの屋上から飛び降り自殺をしました。

○自殺は、一般的に様々な要因が複雑に絡み合っ
て発生するが、今回のように専門医も含めて周囲が十分な方策をとっている場合でも発生することがある。

■本事例におけるポイント■

E子の前兆行動（サイン）

- 親と話をしなくなった。
- 学校を休みがちになった。
- 自分の部屋に閉じこもり、沈みがちになった。
- 拒食症になるなど、精神的にもかなり不安定な状態になった。
- 中学校時代にリストカットをしていた。

サポートチームの対応等

- 保護者からの情報提供をもとに状況確認をした上で、専門医、スクールカウンセラー等からなるサポートチームを作り、学校、家庭、専門医等の連携を密に図りながら、具体的な対応を行った。